



環境マネジメント

環境憲章

理想科学は、企業としての環境への取り組み姿勢を明示し、
全社を挙げて環境保全活動を推進していくために、
理想環境憲章ならびに環境行動指針を1998年8月に制定しています。

理想環境憲章

理想科学工業株式会社は優れた製品の開発を通して社会に貢献することを基本理念とし、
加えて地球社会の一員であることを深く認識し美しい健全な環境を次世代に引き継ぐために
地球規模での環境保全に貢献するよう努めます。

環境行動指針

1. 環境に配慮した製品の開発

製品の開発・設計の段階から生産、流通、使用、リサイクル、廃棄などの各段階を考慮し、トータルでの環境負荷を低減するよう方針を策定し、実行する。

2. 省資源、省エネルギー

事業活動によって生じる環境への影響を調査、検討し、環境負荷を低減するよう、省資源、省エネルギーに努める。

3. 地域の環境保全

国、地方自治体などの環境規制等を遵守することにとどまらず、事故等の緊急事態に備えて汚染の可能性を検討し、予防する。

4. グローバルな視野での対応

海外事業活動および製品輸出に際しては、現地の環境に与える影響に配慮し、現地社会の要請に応えられるように努める。

5. 継続的な改善

事業所ごとに環境管理の組織、制度および目的・目標を整備し、継続的な改善活動を実施する。

6. 環境教育と情報公開

環境について全従業員が見識を深めることができるよう、当環境憲章および行動指針をもとに適切な教育や啓蒙活動を行うと同時に、積極的に一般公開し、社会との連携により一層の環境負荷の低減に努める。

2000年7月24日改定
代表取締役社長 羽山 明

VOICE !



環境対策推進部 部長
高橋康信

2005年度の環境活動実績及び今後の抱負

地球温暖化防止対策、EUのRoHS指令やWEEE指令への対応など、グローバルな視点での環境への配慮が企業に求められています。2005年度は、このような状況を踏まえ、「環境に配慮した製品の開発、製造、販売」を重要課題として取り組みました。その結果、エコマーク認定基準を達成した製品やRoHS指令に対応した製品の提供といった成果を上げることができました。今後も、グリーン調達などを通じて取引先企業との連携を深め、製品における環境配慮に積極的に取り組んでいきます。

また、全社の環境マネジメントシステムの構築を進めるとともに、2005年12月には、「全社環境目的・目標」を制定し、2006年度より本格運用を開始しました。社員一人ひとりが会社の環境政策を理解し、毎日の仕事のなかで環境負荷を低減する意識をもつことが、目標達成への第一歩であると考えています。一人ひとりの地道な取り組みが積み重なって、全社の大きな成果に結びつきます。2007年発行の環境経営報告書において、一つでも多くの成果をご報告できるよう、より一層の努力を続けていきたいと思っております。